

## 小田原市学校給食センター整備事業公募型プロポーザル 審査結果報告書

小田原市学校給食センター整備事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、小田原市学校給食センター整備事業に関して、小田原市学校給食センター整備事業優先交渉権者選定基準（以下「選定基準」という。）に基づき、提案内容等の審査を行ったので、審査結果及び審査講評を報告する。

### 1 審査体制

選定委員会の構成は、次に示すとおり。

役職	氏名	備考
委員長	遠藤 新	工学院大学 教授
委員長職務代理者	中村 眞樹子	小田原短期大学 准教授
委員	中島 正視	中学校校長会会長
委員	小澤 寛之	小田原市企画部副部長
委員	石井 裕樹	小田原市総務部副部長
委員	府川 良則	小田原市建設部副部長
委員	北村 洋子	小田原市教育委員会 教育部長

### 2 開催経過

選定委員会は計3回開催した。開催日と議題等は次に示すとおり。

	開催日	議題等
第1回	令和3年8月30日	委員長及び委員長職務代理者の選任、事業の概要説明、実施要領（案）、要求水準書（案）、選定基準（案）、様式集（案）の確認
第2回	令和3年11月25日	【第1次審査】 応募資格の審査
第3回	令和4年2月3日	【第2次審査】 プレゼンテーション・ヒアリングの実施 優先交渉権者、次点交渉権者の選定

### 3 審査内容

#### (1) 第1次審査

3つの共同事業体から参加表明書の提出があり、当該参加表明書に基づき各者の応募資格について審査した結果、3者とも応募資格を満たしていることを確認した。

#### (2) 第2次審査

応募資格を満たした3者から提案書等が提出され、個別にプレゼンテーション及びヒアリングを実施した。なお、審査にあたっては、共同事業体名及び企業名を伏せ、参加表明書の受付順に審査を行った。

提出された提案書等の内容、プレゼンテーション及びヒアリングの結果を踏まえ、事前に選定委員会が定めた基準に基づき、事業遂行能力に関する事項、施設計画に関する事項、業務に関する事項及び地域貢献・社会貢献について、提案書の内容を評価した。

#### ア 提案書評価（評価配点：320点）

評価項目ごとに評価の着眼点を設け、評価を行い、点数化した。各評価項目における評価の着眼点は以下のとおり。

評価項目	評価の着眼点
事業遂行能力	<ul style="list-style-type: none"><li>・実施体制</li><li>・工程計画</li></ul>
施設計画に関する事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・周辺との関係</li><li>・調理運営しやすい諸室の計画</li><li>・厨房機器の性能、及び維持管理への配慮</li><li>・電気、機械設備の維持管理への配慮</li><li>・その他</li></ul>
業務に関する事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・品質管理</li><li>・コスト管理</li><li>・工程管理</li><li>・安全等管理</li><li>・開業準備支援</li></ul>
地域貢献・社会貢献	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域貢献</li><li>・社会貢献</li></ul>

#### イ 価格点（評価配点：80点）

提案価格書の金額が、事業費上限額を超えないことを確認し、選定基準に基づき点数化した。

#### 4 審査結果

提案書評価、価格点の合計した総合評価点が最も高いA共同事業体を優先交渉権者、次に高いC共同事業体を次点交渉権者として選定した。

(参考) 選定委員会における審査結果

評価項目		評価の着眼点		配点	A共同 事業体	B共同 事業体	C共同 事業体	
提案書 評価	事業遂行 能力	実施体制	企業実績	10	10.00	10.00	10.00	
			経験豊富な担当者	15	7.00	7.00	10.00	
			財務状況	10	6.29	6.57	6.57	
		工程計画		15	9.00	9.00	11.57	
	施設計画に 関する事項	周辺との関係		30	28.29	21.43	20.57	
		調理運営しやすい諸室の計画		40	29.71	32.00	32.00	
		厨房機器の性能、及び維持管理への 配慮		35	32.00	27.00	28.00	
		電気、機械設備の維持管理への配慮		25	17.14	15.00	18.57	
		その他(食育推進、市民利用、環境、防 災・災害)		30	24.00	21.43	25.71	
	業務に関す る事項	品質管理		20	12.57	12.00	12.57	
		コスト管理		20	12.00	14.86	14.29	
		工程管理		20	12.00	12.00	12.00	
		安全等管理		15	11.57	9.00	9.00	
		開業準備支援		15	12.00	9.00	12.00	
	地域貢献・ 社会貢献	地域貢献		10	10.00	10.00	10.00	
		社会貢献		10	8.00	10.00	8.00	
	価格点				80	78.62	80.00	72.97
	総合評価点				400	320.19	306.29	313.82
	順位					1位	3位	2位

※各項目の算定方法は選定基準に掲載

優先交渉権者となったA共同事業体、次点交渉権者となったC共同事業体の構成員及び提案価格書の金額は以下のとおり。

1 位（優先交渉権者）：A 共同事業体

（代表者）	瀬戸建設株式会社
（建設業務に当たる者）	瀬戸建設株式会社
（調理機器に係る業務に当たる者）	日本調理機株式会社 横浜営業所
（設計業務・工事監理業務に当たる者）	株式会社梓設計 横浜支社
（提案価格書の金額）	1,866,029,000 円（税込）

2 位（次点交渉権者）：C 共同事業体

（代表者）	松浦建設株式会社
（建設業務に当たる者）	松浦建設株式会社
（調理機器に係る業務に当たる者）	株式会社中西製作所 横浜営業所
（設計業務・工事監理業務に当たる者）	株式会社長大 南関東支店
（提案価格書の金額）	2,010,467,800 円（税込）

## 5 審査講評

本プロポーザルは、現在の学校給食センターにおいて、施設の再整備が喫緊の課題となっている状況を受け、民間事業者の実績とノウハウを活用し、公共施設として安全で、調理運営しやすい施設を整備することを目的として実施されたものである。

本事業を行う事業者を公募型プロポーザルで選定するに当たり、選定委員会において、提案内容の各項目について厳正かつ公正な審査を行った。

事業者には、本事業の趣旨を十分に理解した上で、新しい学校給食センターに求められる機能について幅広い提案を期待したところ、多くの事業者から関心が寄せられ、最終的に3つの共同事業体から応募があった。

各提案は、いずれも市の要求水準に真摯に向き合ったもので、「安全・安心な学校給食の提供」、「魅力ある学校給食の提供」、「食育の推進」、「地域への配慮」、「環境への配慮」、「災害への対応」及び「ライフサイクルコストの軽減」といった市の基本的な考え方に対し、柔軟かつ創意工夫に富んでいた。また、安全・安心な学校給食を提供できる施設とすることが大前提となる中で、周辺との調和、省エネルギーや再生可能エネルギー等の環境への配慮、地元産木材の利用等、より良い施設とするための魅力的な提案があった。

優先交渉権者に選定されたA共同事業体は、調理エリア内の調理運営や衛生管理に配慮された平面構成となっており、特に、市職員事務室から荷受室や搬入車両が見渡せることや調理機器の更新がしやすいこと等、食材の搬入や施設の維持管理に配慮した計画となっていた。また、多くの方に親しみを持ってもらえるデザインであるほか、車両動線に余裕を持たせ、前面道路からの歩車分離が図ら

れる等、安全で運営がしやすい外構計画であること等が、総合的に優れていた。

惜しくも次点に選定されたC共同事業体は、調理運営がしやすい平面計画であったほか、建設予定地の浸水想定を考慮した対策や施設のセキュリティ計画、調理の流れに沿って順次観ることができるような見学窓の工夫等、提案が良く練られており、提案書評価では甲乙つけがたく、審査結果は伯仲したが、価格点を含め総合的に優先交渉権者に及ばなかった。

残念ながら選外となったB共同事業体からは、イニシャルコストの縮減を図るとともに、ランニングコストにも配慮した施設計画、周辺の景観に馴染む外観、地元産材の利用等、意欲的な提案が示された。しかしながら、施設計画においてやや具体性を欠く点が散見されたことから前二者の後塵を拝することになった。

最終的に、A共同事業体が総合評価点で最上位となったが、審査側として、小田原の子供達に安全で安心なおいしい学校給食を届ける良い施設を造りたいとの想いを各共同事業体の皆様から感じ、提案を重く受け止める次第である。

今後、優先交渉権者が本事業を実施するに当たり、提案内容を遵守するのはもちろんのこと、市と十分に協議し、より良い事業の実現に向けて尽力されることを期待する。

終わりに、各共同事業体の皆様には、各企業の実績とノウハウが最大限に生かされ、創意工夫に富んだ提案をいただいたこと、また書類等作成における御尽力に対して、心から感謝し敬意を表するとともに、今後の事業の成功を心から期待申し上げます。

令和4年3月15日

小田原市学校給食センター整備事業者選定委員会  
委員長 遠藤 新